

都道府県名	岡山県
-------	-----

学校の概要（平成15年4月現在）

学校名	鏡野町立南小学校								
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	2	1	1	1	1	2	1	9	16
児童数	44	32	37	31	36	41	2	223	

研究の概要

1. 研究主題

「生き生きと活動し、共に伸びる子どもの育成」
 - 個に応じた指導法や形態を工夫し、基礎・基本の定着を図る -

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

全学年，算数科を中心として
 （少人数の研究実績があり，それを生かして研究を進めていくため）

(2) 年次ごとの計画

平成15年度	<p>テーマ 「生き生きと活動し、共に伸びる子どもの育成」 - 個に応じた指導法や形態を工夫し、基礎・基本の定着を図る -</p> <p>研究の見通し 本校の研究テーマは「生き生きと活動し、共に伸びる子どもの育成」である。基礎・基本を身につけさせることにより、子どもたちが学習に対して自信をもつことができ、生き生きと活動できるのではないだろうかと考える。 また、少人数指導（習熟度別学習等）では、個に応じたきめ細かな指導をすることで、教え合ったり、競い合ったりしながら、意欲的に取り組み、共に伸びるのではないだろうかと考える。 さらに、音読や合唱、発表などの声を出す活動を多く取り入れることで、表現力がつき、生き生きと活動できるのではないかと考える。</p> <p>研究の内容・方法 「基礎・基本」についての共通理解を図る。 算数科では、領域ごとと学年ごとの年間指導計画を作成し、系統性をはっきりとさせる。 学習集団の編成方法を工夫し、実践する。（均質、習熟度別、課題別） ・ 2～5年は2クラスに分ける。6年は3クラスに分ける。 指導内容や指導方法等の打ち合わせ時間を確保する。 指導に生かす評価を工夫し、子どもの自己評価力をつける。 アンケートをし、指導に生かす。 「基礎学力・表現力」をつけるための共通理解をし、実践する。 ・ 朝自習 : 「読む力」をつけるために「読書」をする。 ・ 家庭学習 : 「読む力」「表現力」をつけるために「音読カード」を利用する。 ・ 授業の中 : 「しっかり声を出して読むこと」「短い文を写すこと」「考えを書くこと」「友達の考えをしっかりと聞くこと」「自分の考えを発表すること」等を意識しながら授業を組み立てていく。 ・ 算数 : 「計算力」をつけるために「100マス計算」をする。 ・ 朝の会 : 「今月の歌」「今月の詩」の取り組みをする。 パソコンを効果的に活用する。 ・ 基礎学力向上にむけ、パソコンソフトを選択し、活用する。 基礎学力の定着や学習の深まりが期待できるような教材・教具・プリン</p>
--------	---

ト等を利用したり，作成したりする。

平成 16 年度	<p>テーマ 「生き生きと活動し，共に伸びる子どもの育成」 - 個に応じた指導法や形態を工夫し，基礎・基本の定着を図る -</p> <p>研究の見通し 基本的には，平成15年度の仮説を続けて実証していく。 追加・変更の検討中。</p> <p>研究の内容・方法 基本的には，平成15年度の内容を続けて研究していく。 追加・変更の検討中。</p>
----------------	---

(3) 研究推進体制

- ・ 全体会.....全教職員が所属
- ・ 各部会.....低学年，中学年，高学年に分かれて研究。部会の代表3名で全体会も含めて研究を進めていく。

平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究成果

少人数指導をすることで算数における「基礎・基本」を身につけさせることに取り組んできた。計算力をつけるためには，昨年に引き続き習熟の時間を時間割の中に位置付けての反復練習をした。さらに，100マス計算をしたり，パソコンソフトを利用したりしてきた。

単元の違いはあるのだが，6年から2年までのテスト結果を1学期と2学期で比較してみた。表現・処理では，平均点が87.2点から90.4点へ上昇した。特に，6年では84点から94点へ，3年生では91点から96点へ，2年生では84点から92点へと上昇している。計算以外の出題もあるのだが，概ね計算力はついていっているように思われる。知識・理解では，4年生が6.1点，2年生が1.9点上昇している。また，思考力については，全校での朝読書に取り組んだり，授業において今まで以上に問題文をていねいに読み取っていったり，思考過程をみんなに説明させることを多く取り入れたりしてきた。習熟度別指導では文章題をじっくり読み取ることで，個に対応した指導をしてきた。思考力では，2年生の平均点が4.8点，6年生が4.6点上昇した。

どの学年にも低学力の子が見られるが，少人数ということによって個に応じた指導ができ，底上げがなされていることがわかる。週に何回かの個別指導をすることで，遅れがちで集中のできない子が少しずつ基礎的なこともできるようになってきた。さらに，テスト結果の度数分布図を見ると，5年，4年ではばらつきが少なくなりました。また，5年，4年ではばらつきが少なくなりました。

国語（少人数以外の他教科）と算数を比較してみた。教科間の違いや子ども個人の得意不得意があることを考慮しての比較ではあるが，各学年とも概ね算数のテスト結果の方がよかった。2年生については，今年度から少人数指導が始めたことで，算数での平均点上昇や他教科との比較においてよい結果が出ていることから成果がうかがえる。6年生については，今年度から2組に分かれたことで，すべての教科で少人数を実施していることと同じであり，よい結果が出ている。これらのことから，来年度についても，引き続き今年度の取り組みを続けていくことが必要である。

年度当初の計画にはなかったのだが，「学習過程」についての研究が必要になってきた。「a. 対象と出会う場の設定」「b. 子どもにまかせる場の設定」「c. 考えを分かり合う場の設定」「d. ふりかえりの場の設定」という4つの場を指導者側が意識しながら授業を組み立ててきた。aやdでは，視覚的な教具やプロジェクター・スマートボードなどを利用することで，子どもたちの興味・関心を十分に引き出している活動ができてきた。bやcでは，例えば，少人数のクラス編成でさらに小グループに分けて活動するとき，一人ひとりが自分のこととして考えて意見を出したり，気軽にわからないことを教え合ったりすることができ出した。また，個人の意見としてよりグループの意見として発表することのほうが，自信と安心を持って発表でき，多様な考えを交流し合う中で学習にも深

まりが出ている。さらに、cでは、発表の仕方として「友達の意見に続ける」ことを意識させることで表現力が向上してきた学年もある。

2. 今後の課題

仮説を実証するために算数を中心として研究を進めてきたことで、多くの成果があったが、十分ではない。以下の点について次年度の課題としたい。

- ・文章題を読み取る力がまだ十分ではない。授業の中でじっくり考える時間を確保できるように時間の配分等を考えたい。
- ・語彙力が不足している。
- ・低学年にとっては、自己評価をしていくことは大変なのだが、授業の最後にノートに書いていくなどの取り組みを系統的に積み重ねていきたい。
- ・高学年になると学力差が大きいので、低学年のうち、必要な子には、少人数加配や児童支援加配と協力しながら個別指導等ができるような体制を考えたい。
- ・間違えたことをそのままにしている児童が見受けられる。個人でのつまずきを修正するなどの思考のフィードバックを徹底させることは難しいのだが、取り組んでいきたい。
- ・各教科での年間指導計画はあるのだが、算数と他教科との関連をはっきりさせておくような計画表を作成したい。
- ・子ども達や保護者の意識をつかむことができ、反映させながらの指導をしているが、調査の項目をさらに工夫し、きめ細かな指導をしていきたい。
- ・算数については引き続き研究していくが、テーマに迫るために表現力をつけるために国語等についても研究の必要がある。
- ・多くの課題について取り組む上で、低中高の学年部だけでは研究を深めにくい場合があった。研究組織体制を工夫していきたい。

学力等把握のための学校としての取組

学力テストについては、今年度中（3月2日）に実施する予定であり、結果について十分検討して来年度に生かしていきたい。
来年度についても実施予定。

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

日程等未定
授業公開，研究実践発表の予定

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。（複数チェック可）

- 【新規校・継続校】 15年度からの新規校 14年度からの継続校
- 【学校規模】 6学級以下 7～12学級
 13～18学級 19～24学級
 25学級以上
- 【指導体制】 少人数指導 T・Tによる指導
 一部教科担任制 その他
- 【研究教科】 国語 社会 算数 理科
 生活 音楽 図画工作 家庭
 体育 その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 有 無